

★学校教育目標		◎すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		①基礎的、基本的な知識及び技能を各待たせ、ていつを活用し、日々ついにしに課題を志す力、判断力、表現力を生かし、様々な人との対話や情報等を活用して探究活動をしなが、意欲的に学び、課題解決をしていく児童。②自らすすんで基本的な生活習慣を整えるとともに健康の保持・増進や体力の向上に励む児童。③「いのち」の尊さ・素晴らしさを自覚し、自分も他人の「いのち」も大切にできる児童。多様な人々と親し、触れ合うことを通して理解を深め、④いのちの尊さや素晴らしさを実感できる学校。⑤安心・安全な環境で学校生活を送ることができる学校。⑥児童一人一人の多様性を認め、誰もが過こしやすい学校。⑦常に向上心をもって、学び続ける児童を育てる学校。⑧児童、保護者一人一人の思いに、寄り添う学校。⑨児童一人一人のもつ可能性を最大限に引①教師としての使命感、熱意、愛情をもち、児童一人一人のいのちを大切に育む教師。②児童や保護者、地域の思いや願いを受け止め、寄り添って考え、課題解決に取り組んでいく教師。③児童の規範となる服務規律を遵守する教師。④目指す児童像や学校像に向けて、努力する教師。⑤「ライフワークバランス」を		「いのちを大切にし、いのちを輝かせるために取り組んでいく学校に」 ① 児童一人一人が、いのちの尊さや素晴らしさ感じ、考えを深め、自他のいのちを大切にできる児童を育む教育の推進 ② 確かな学力の定着と一人一台の端末を活用したGIGAスクール構想の推進。 ③ 地域とともに創る教育の推進。 ④ からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上の推進。 ⑤ 多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育の推進。	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標			評価点	成果指標
いのち	○児童が教育活動を通して生命の尊さや素晴らしさを実感し、考えを深めることで、自他の「いのち」を大切にしようとする心を深め、行動できる豊かな人間性の育成を図る教育を推進する。	●「いのちの尊さ」を実感し、自他のいのちを大切にしようとする思いや考えをもつことができるようになる。●一人一人の児童理解に努め、児童の思いに寄り添い、児童のよりよい成長を目指す教育を実践する。●ふれあい月間やいじめアンケート等を活用して、つらい思いや、苦しい思いをしているケース等を拾い上げ、学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラー等を活用し、対応、指導の充実を図る。●危機管理・安全指導計画に基づき、学校、地域における安全確保の徹底と児童自身の安全に関する意識の向上を図る。	◎「いのちの学習」全体計画、各学年の「いのちの学習」年間指導計画に基づき、各教科、道徳、行事等で計画的に「いのちの学習」に取り組む。目指す児童像を現実的に「いのちの学習」に取り組み、改善を図るとともに、創意工夫のあふれる「いのちの学習」を推進する。◎「特別の教科 道徳」の授業を年間計画に沿って、意図的、計画的に実践し、「考え、議論する道徳」の授業に取り組む。自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	3.1	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4 100%の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.5 ・自分のいのちも他人のいのちも守って命あるものすべての命を大切にすることに日頃から取り組んでいる。コロナ禍にあり、今後もいのちの大切さや友達を思う心の大切さについての取組は重要となる。継続して進めていただきたい。	成果指標3 ・全ての教育活動において、「いのち」の大切さの指導を繰り返し実践している。また「特別の教科 道徳」においては、自分と向き合うと共に他者も大事にすることを意識的に取り組んだ。今後も自他を大切にし豊かな心の醸成を進めていく。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。		
いのち	○児童が教育活動を通して生命の尊さや素晴らしさを実感し、考えを深めることで、自他の「いのち」を大切にしようとする心を深め、行動できる豊かな人間性の育成を図る教育を推進する。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図る。●放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。●児童が学びたい、追究したいという気持ちをもちながら、一人一人の力を最大限に伸ばしていくことができる教育活動の推進を図る。●「主体的、対話的で深い学び」を目指した学習指導の工夫を推進する。	◎「いのちの尊さ」を考える視点に立ち、児童の安全を守る安全点検、通学路点検、防災対策、交通安全教室、自転車安全教室、火災や地震・不審者対応等の避難訓練、セーフティ教室、防犯教室、地域安全マップの作成、薬物乱用防止教室等の取組、児童虐待防止研修、情報モラル指導や月1回の安全指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。	3.4	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.6	4 100%の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.6 ・学校内外での行動について、地域・保護者・警察との連携を常にとりていくことが大切である。特に、交通事故の防止について考えたい。登下校中、複数でいると注意が散漫になっている様子を見かける。繰り返しの指導をお願いする。	成果指標3.1 ・危機管理・安全指導においては、日々の指導の充実はもちろん、月間、年間計画に沿って警察・消防等とも連携を取り指導を充実することができた。今後も工夫しつつ、「自分の命は自分で守る」ことを目指して有事の際には自分の命を守る行動ができる児童の育成に努める。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。		
学び	○基礎的、基本的な知識、技能の定着と学ぶ意欲の向上、思考力、判断力、表現力等の資質や能力の育成を図る。一人一台の端末を活用し、GIGAスクール構想に基づいた教育を推進する。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図る。●放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。●児童が学びたい、追究したいという気持ちをもちながら、一人一人の力を最大限に伸ばしていくことができる教育活動の推進を図る。●「主体的、対話的で深い学び」を目指した学習指導の工夫を推進する。	◎各教科、領域等の年間指導計画に基づき、教育活動を意図的、計画的に推進する。◎授業のねらいを明確にし、ねらいを達成していくために導入、発問、授業構成、教材準備、板書等に創意工夫を図る。◎基礎的、基本的な知識・技能の定着のために、習熟の程度に応じた指導や補習学習、繰り返し学習等、一人一人の児童の実態に応じた指導を行っている。◎児童が自分の考えをもち、話し合い、深め合うことを通して、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。◎児童が自ら課題を見付け、探究的に調べ、考えを深め合って解決していく問題解決学習の充実を図る。	3.2	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4 100%の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.5 ・コロナ禍で学校に来ることができず、学校内での様子を知る機会が少なかった。多くの児童は落ち着いているように思う。教員が児童を理解して接している様子が見られる。これからも頑張ってください。	成果指標3 ・児童一人一人に合わせた学習指導の工夫において教材研究や指導法の工夫をし、一人一台学習者用端末を用いた授業づくり・授業改善に努めた。Chromebookを活用したことで個人の考えの交流にも効果があった。今後も『できる・分かる・楽しい』授業を展開し、児童の学力向上に努める。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。		
学び	○基礎的、基本的な知識、技能の定着と学ぶ意欲の向上、思考力、判断力、表現力等の資質や能力の育成を図る。一人一台の端末を活用し、GIGAスクール構想に基づいた教育を推進する。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図る。●放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。●児童が学びたい、追究したいという気持ちをもちながら、一人一人の力を最大限に伸ばしていくことができる教育活動の推進を図る。●「主体的、対話的で深い学び」を目指した学習指導の工夫を推進する。	◎研究主題「主体的・対話的で深い学びの取組への授業改善～一人一台端末の活用をした多様な実践的な取組を通して～」に向けて、研究を推進する。各分科会で、一人一台のChromebookを活用した個別最適化された学習や自分の思いや考えを他者と双方向で交流し、「主体的、対話的で、深い学び」の授業を目指して、授業改善に取り組む。◎教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる「言語能力」「一人一台の端末を活用した情報活用能力」「問題発見・解決能力」等の資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習の充実を図る。	3.2	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.2	4 100%の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.6 ・GIGAスクール構想の実現に向け一人一台端末に取り組んだことは大変良いことだと思う。コロナ禍の中、端末の利用には期待が高まっている。児童一人一人のスキルアップとともに情報モラル教育については十分な指導をしていくことを期待する。	成果指標3 ・「主体的・対話的で深い学びの取組への授業改善～一人一台端末の活用をした多様な実践的な取組を通して～」においては、全教員が意欲的に研修に臨み、切磋琢磨し合って授業改善に取り組むことができた。今後も意欲的に授業改善に取り組む。児童が各自端末を道具として活用し、意欲的に学習に取り組むことで学力向上を図りたい。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。		
地域	○一人一人の児童に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康、体力」の生きる力をバランスよく育てていくために、学校、家庭、地域社会が協働した教育活動を推進する。	●地域の自然環境や学校支援ボランティア、専門家等の人材を活用し、自然体験、生活体験、本物体験等の豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する、豊かな学びを創意工夫する。●学校運営連絡協議会や保護者アンケート等の外部評価を活用し、家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実、改善を図る。●児童が地域に出て、地域の方々や活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、学び、自分の生き方を考えたりしていけるようにする。	◎児童が豊かな学びを体験できるように、各学年、各教科等の年間指導計画等に基づき、外部専門家や学習支援ボランティア等を積極的に活用した教育活動を企画し、推進する。◎児童が学ぶ楽しさ、おもしろさを実感できる体験学習等ができるように、地域の自然環境やボランティア、専門家等の人材活用を図り、創意工夫した授業実践を行う。	3.3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4 100%の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.6 ・コロナ禍にあって、様々な体験的活動をしていることがわかった。様々な行事を変更・中止しつつ、できることを工夫して行っていることを評価する。児童一人一人の思いを大切にしたい。	成果指標3 ・外部専門家や学習支援ボランティア等地域協力者と連携して、効果的な学習活動を進めることができた。児童には地域を知り、誇りをもつきっかけになった。今後も地域を大切に活動を展開し郷土愛を高めていく。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。		
地域	○一人一人の児童に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康、体力」の生きる力をバランスよく育てていくために、学校、家庭、地域社会が協働した教育活動を推進する。	●地域の自然環境や学校支援ボランティア、専門家等の人材を活用し、自然体験、生活体験、本物体験等の豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する、豊かな学びを創意工夫する。●学校運営連絡協議会や保護者アンケート等の外部評価を活用し、家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実、改善を図る。●児童が地域に出て、地域の方々や活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、学び、自分の生き方を考えたりしていけるようにする。	◎開かれた学校づくりを一層推進するため、学校の教育方針や実践活動等を広く学校ホームページや学校便り、学年便り等で発信する。◎児童が、地域やPTAのボランティア活動に参加し、社会に役立つ経験を通して、自己有用感を感じることができるようになる。◎児童が、地域の人とともに活動することで、社会性や地域に対する郷土愛を育む。「アユの放流体験」「桑の葉を使った『紙漉き体験』」「多摩川河川敷での化石採取体験」等に取り組む。	2.9	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.3	4 100%の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.5 ・地域の環境を生かした学習活動を進め、地域支援者や学校サポーターの活用などを円滑に進められていることを評価する。今後も郷土愛を育み、地域の方とのつながりを大事にして欲しい。今後の取組に期待する。	成果指標3 ・コロナ禍の中、地域への情報発信においては十分ではなかった。学校行事や学校公開も保護者のみとせざるをえなかった。今後は外部や地域への発信方法を工夫する必要がある。一方、多くの保護者から学校教育の工夫や児童の安全・安心等の発信に評価を得た。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。		
健康・体力	○からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上を図る。	●オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体育授業の充実を図る。●自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。	◎意図的に多様な運動を一定期間重点化し、アクティブタイム等日頃から児童が運動に親しむ機会を設定することで、日常的に運動に親しみ、体力向上と健康増進を図る。◎家庭や地域と連携して、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立、創意工夫を凝らした食育の充実を図り、生涯にわたる健康づくりの基礎をつくる。	3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4 100%の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.6 ・コロナ禍の中、家では外出が控えられ体力が低下しているといわれている。体力向上の取組とともに、タグラグビー教室や空手教室での選手との交流には意味がある。今後もどんな状況においても工夫して取り組んでいくことを期待する。	成果指標3.2 ・体力向上への日常的な活動においては、今年度も試行錯誤の1年になった。健康教育では、児童に安全衛生行動を身に付けさせることができた。また「がん教育」等は充実した取組を進めた。今後も健康教育において、食育を含め、健康づくりの基盤をつくっていく。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。		
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。●全ての児童が参加し、分ける喜びを実感できる授業の創造に努める。	◎支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。◎授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。	3.3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.6	4 100%の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.4 ・児童一人一人の個性に寄り添い、大事にされていることがよくわかる。やる気が湧いて考え、工夫することによって能力を伸ばすことにつながるため、今後も継続してお願いしたい。	成果指標3 ・特別支援教室の拠点校として、巡回指導教員との連携を密にとることができた。支援を要する児童については、校内支援委員会を中心に組織的に対応した。今後もSCやリソースルームティーチャー、巡回心理士との連携を充実させ、より一層の充実を図る。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。		
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。●全ての児童が参加し、分ける喜びを実感できる授業の創造に努める。	◎支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。◎授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。	3.3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.6	4 100%の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.4 ・児童一人一人の個性に寄り添い、大事にされていることがよくわかる。やる気が湧いて考え、工夫することによって能力を伸ばすことにつながるため、今後も継続してお願いしたい。	成果指標3 ・特別支援教室の拠点校として、巡回指導教員との連携を密にとることができた。支援を要する児童については、校内支援委員会を中心に組織的に対応した。今後もSCやリソースルームティーチャー、巡回心理士との連携を充実させ、より一層の充実を図る。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。		
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。●全ての児童が参加し、分ける喜びを実感できる授業の創造に努める。	◎支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。◎授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。	3.3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.6	4 100%の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.4 ・児童一人一人の個性に寄り添い、大事にされていることがよくわかる。やる気が湧いて考え、工夫することによって能力を伸ばすことにつながるため、今後も継続してお願いしたい。	成果指標3 ・特別支援教室の拠点校として、巡回指導教員との連携を密にとることができた。支援を要する児童については、校内支援委員会を中心に組織的に対応した。今後もSCやリソースルームティーチャー、巡回心理士との連携を充実させ、より一層の充実を図る。
					3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 90%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。